

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：32206

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12348

研究課題名(和文) 就労準備を行う生活困窮者の健康管理スキル、社会スキル向上プログラムの作成と評価

研究課題名(英文) Development of a stress-coping educational program for welfare recipients on workfare programs in Japan

研究代表者

谷山 牧(Taniyama, Maki)

国際医療福祉大学・小田原保健医療学部・教授

研究者番号：40413166

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：比較的若い世代の生活保護受給者の就労意欲に影響を与える健康特性を検討した。当事者インタビューの結果、健康特性として【他者から理解されがたい持続的な苦痛】【精神的防御力の低さ】【社会的適応力の低さ】【自己流の健康管理】があり、これらはトラウマティックストレスにより引き起こされている可能性が考えられた。このうち、【精神的防御力の低さ】【社会的適応力の低さ】の改善を目指し、トラウマ・インフォームド・アプローチを基盤とした「ストレス対処講座」を作成し、評価を行った。参加後、自覚的健康度や自尊心には有意な変化はなかったものの、不安・不確実感の有意な軽減が認められ、ストレス反応の改善傾向が示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

重篤な疾患や障害のない、比較的若い生活保護受給者に対する世間の目は厳しい。本研究では、就労支援を受ける生活保護受給者の就労への障壁となる健康特性を明らかにした。【他者から理解されがたい持続的な苦痛】【精神的防御力の低さ】【社会的適応力の低さ】といった特性があることで、就労意欲があっても就労に結びつかない状況にあることが示された。また、これらの特性は、過去のトラウマに関連している可能性が考えられたため、トラウマ理解に基づいた支援が必要だと考えた。トラウマ理解に基づくプログラムを実施・評価することで、安心できる場を提供し心身の状況を整えることが、就労支援の一環として有効である可能性が示された。

研究成果の概要(英文)：The aim of the study is to clarify the structure of health characteristics that affect the willingness of welfare recipients to work. Our qualitative studies found that workfare participants have complex health concerns, including 【chronic pain】，【vulnerability to stress】，and 【difficulty with social adaptation】，which may relate to traumatic stress. Next, we developed and pilot-tested a stress-coping program based on the Trauma Informed Approach for Japanese workfare participants. The program includes sessions focused on awareness of traumatic stress, coping with stress and emotions, mindfulness and yoga, and thinking about “social support.” Program providers learned the Trauma Informed Approach before the program. Participants completed the pre and post surveys, revealing overall scores trending toward improvement. The program is potentially effective for stress management efforts, but further study is needed for an objective evaluation.

研究分野：地域看護学

キーワード：生活保護受給者 就労支援 福祉から就労 ストレスコーピング トラウマ トラウマインフォームドアプローチ

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

継続する経済的不況、雇用形態の変化に伴い、我が国の経済的困窮者数は増加している。さらに近年の家族形態や家族機能の変化から核家族化も進んでおり、失職などにより経済的に厳しい状況に陥った際の支えを失いやすい状況にある。不況のさらなる長期化により、今後も経済的な困窮状態に陥るものは増加することが予測される。経済的困窮に対する社会保障である生活保護受給者(受給者)も年々増加しており、なかでも稼働年齢世代の受給者の増加は顕著である。

先進諸国では能力のある受給者に就労を求める政策、Workfare が進められており、仕事に就くことにより公的扶助から自立した生活に移行するものを増加させようという取り組みが行われている。我が国でも稼働年齢世代の受給者を対象とした就労支援事業が 2005 年より開始され、2013 年に改正生活保護法と生活困窮者自立支援法が成立し、就労自立支援や就労準備支援プログラムが提供されるようになったが、地域によりプログラムの実施状況に大きな差がある。

経済的な困窮と健康問題については、国内外で多くの研究が行われており、経済状態は健康状態と関連することが報告されている。所得の高低と健康状態を比較した調査の結果、所得の低い者の主観的健康感は低く、うつ傾向にあり、不眠の割合が高く、好ましくない健康習慣を持つ者が多いとの報告もある。受給者の健康状態や健康行動に関する先行研究によると、生活保護受給者はそうでない者に比べ主観的健康感が低く、喫煙率が高いことが報告されている。また、受給者のアルコール、薬物、ギャンブルの依存の問題を持つ者の割合は、一般人口の発生率と比較して極めて高率であることも報告されている。

受給者は、もともと一般人口と比較して健康課題を持つ者の割合が高い生活困窮者であり、就労にも健康課題に関連した影響があると考えられるが、日本においては受給者の健康問題が就労へ及ぼす影響について十分な調査が行われていない。今後さらに労働人口が減少することが予測されている今日、日本において生活保護を受ける稼働世帯の受給者へ就労を求める動きが加速し、より細やかな支援が必要になると考えられるが、就労支援を受ける生活困窮者が就労することに対する障壁となる健康特性や健康課題、効果的な介入を検討した当事者研究は国内ではほとんど存在しないのが実情である。

### 2. 研究の目的

本研究は以下の 2 点を目的とする。

- 1) 就労支援を受ける生活保護受給者、または生活困窮者自立支援法対象者の就労意欲に影響を与える健康特性の構造を明確化すること(健康特性の明確化調査)
- 2) 就労支援を受ける生活保護受給者、または生活困窮者自立支援法対象者の就労意欲を高めることを目的としたプログラムを作成し、評価をすること(プログラム作成と評価)

### 3. 研究の方法

#### 1) 健康特性の明確化調査

関東地方にある A 市において、就労支援を受ける 40 歳から 65 歳までの生活保護受給者、または生活困窮者自立支援法対象者(以後、生活困窮者)へのインタビューによる、質的帰納的研究を行った。インタビューでは主に「就労に対する考え」、「現在の身体的、精神的、社会的健康状態」、「健康を保つために気を付けていること」、「就労準備を行うにあたり、感じている困難」について質問を行った。本人の許可を得て録音したインタビュー内容について逐語録を作成し、Strauss と Corbin (Corbin & Strauss, 2014) の Grounded Theory Approach を参考とし質的分析を行った。調査協力の任意性、回答の拒否が可能、匿名性の保持等を調査説明書に明記して口

頭でも説明をし、署名による調査実施同意を得た上で調査を開始した。本研究への協力や拒否は、今後の生活保護受給には全く影響を与えないことを強調して説明した。過去の衝撃的な体験、苦悩の語りについては追体験や Post-Traumatic Stress Disorder をひき起こす可能性もあるため、就労に関連しない事項については掘り下げて質問することを避け、協力者が自由に語る範囲での事象を聞くに留めた。個人が特定できる情報はトランスクリプトからも除去し、個別のプロフィールについて詳細な記述は避けた。本研究は、著者が所属する大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

## 2) プログラム作成と評価

健康特性の明確化調査において、就労意欲に影響を与える健康特性と抽出された【精神的防御力の低さ】、【社会的適応力の低さ】の改善を目指し、「ストレス対処講座」の作成と評価を行った。希望する講座内容、講座の持ち方、時間帯、規模、会場などについて受給者にヒアリングを行い、その希望を反映した講座を作成した。

講座の目的は、自身のストレスやそのコーピング方法を意識し、より効果的なコーピングを実践するための方略を探る、他の参加者やスタッフとの交流を通じ、ソーシャルサポートに対する認識を高めるとした。講座内容は、ストレスを感じたときの対策、ストレス緩和に役立つ呼吸とヨガ、たばこやお酒との付き合い、こころの危機について考える、仕事が健康へ与える効果とした。また、就労意欲に影響を与える健康特性の分析過程において、これらの問題が過去のトラウマによる影響を受けて生じたものである可能性が考えられたため、講座を運営するスタッフ、講師にはトラウマ・インフォームド・アプローチを意識した関わりをすることを求めた。講義では参加者との双方向的な関わりが持てるよう、質問に対して自身の考えや実際に行っている行動などを大きな付箋に書き込んでもらい、それをもとに意見交換を行った。また、少しでもリラックスできるように、お菓子や飲み物も用意し、講義開始前後は参加者、スタッフで気楽に話ができるようにした。

講座参加前後に、質問紙にて、健康状態（既往歴、治療中の病気、症状、自覚的健康度）、就労への心配（1項目5件法）、自尊心（5項目5件法）、PHRFストレスチェックリストショートフォーム（24項目3件法）、General Health Questionnaires: GHQ-12（12項目4件法）を測定し、参加前後スコアを対応サンプルによるWilcoxonの符号付順位検定により比較し、参加前後の変化の有無を確認した。

## 4. 研究成果

### 1) 健康特性の明確化調査

協力者は男性25名、女性6名、計31名であり、年代は40代から60代であった。インタビューの逐後録から、生活困窮者の就労意欲に影響を与える健康特性と関連する要因として、逐語録から1285セグメントを抽出し、そのうち、健康特性として878セグメント、4カテゴリーを抽出した。また、カテゴリー化の過程において健康や就労意欲に影響を与える要因の存在が確認されたため、影響要因として407セグメント3カテゴリーを抽出した。就労意欲に影響を与える健康特性のカテゴリーとして、【他者から理解されがたい持続的な苦痛】、【精神的防御力の低さ】、【社会的適応力の低さ】、【自己流の健康管理】が抽出された。また、健康や就労意欲に影響を与える要因として、【生活保護廃止への不安と葛藤】、【社会から排除されているという認知】、【就労に対する抵抗感の低さ】の3カテゴリーが抽出された。

就労意欲に影響を与える健康特性の4カテゴリと、関連要因3カテゴリの関連性から、コアカテゴリとして、『複雑な健康課題を抱えながらの就労による利点と、生活保護受給のベネフィットの間での就労意欲のゆらぎ』を抽出した。このコアカテゴリは、就労支援を受ける生活困窮者らは、就労を行うことでの利点はあるが課題を持ちながら就労することの負担は大きく、生活保護受給を継続することで生活は成り立つため、就労したい気持ちはあるが、したくない気持ちも大きく、就労意欲が揺らいでいる状態を示す。

本研究において、就労支援を受ける生活困窮者のほとんどが、身体的、精神的、社会的な健康課題を抱えているが、これらは客観的に評価することが困難で、他者からの理解を得ることは難しく、さらに生来の社会的適応力の低さや精神的防御力の低さから、孤立しやすく、他者からの支援を受けようとしにくい状況があることが明らかになった。彼らが有する健康課題は単一ではなく、ほぼすべての協力者は様々な課題を併せ持っていることが示された。

## 2) プログラム作成と評価

プログラムを2回実施し、14名が参加した。参加者は男性12名、女性が2名であり、40歳代~50歳代が8割を占めた。学歴は高校卒業が約半数、婚姻状況をみると離婚・未婚の者が約9割であり、一人暮らしをしている者が約7割であった。健康問題をみると、現在治療中の病気やケガのある者が約8割であり、治療中の疾患として、うつ、パニック障害、自律神経失調症、心不全、胃炎、喘息、糖尿病、高血圧などがあつた。

講座参加前後の各尺度の変化を表1、

2に示す。上段は初回の全参加者14名の測定値を示しており、下段は前後の比較が可能であった8名の結果を示している。表1に示す、自覚的健康度、仕事への心配、自尊感情については、すべて参加前に比べて、参加後に改善の傾向は認められるが、有意差は認められなかった。

表2には、ストレスチェックリストの解釈度とGHQの結果を示した。参考値として示した50歳代の平均と比べて、参加者のストレス反応は強く、精神的健康度が低いことが分かった。参加前後を比較すると、全体的には改善傾向にあり、不安、不確実感については、有意な改善が認められた。しかしながら、疲労・身体反応については、ネガティブな変化が認められた。

参加者のストレス反応は一般集団と比較して強く、精神的健康度はかなり低いことが明らかになった。また、安心が保たれる環境下での講座への参加は心理的なストレスを減らす可能性があるが、対象者数が限られているため、継続した評価を行う必要があると考えられた。

表1. 自覚的健康度、仕事への心配、自尊感情の変化

項目	参加前 Mean±SD (n=14)	参加後 Mean±SD (n=8)	p
自覚的身体的健康度 1:とても悪い~5:とてもよい	2.3 ± 0.7 2.25 ± 0.9	2.8 ± 0.7	ns
自覚的精神的健康度 1:とても悪い~5:とてもよい	2.7 ± 0.6 2.9 ± 0.6	3.1 ± 0.8	ns
仕事への心配 1:心配だ~5:心配はない	2.6 ± 1.4 3.1 ± 1.5	2.5 ± 1.3	ns
自尊感情 Range: 5 (低い) ~ 25 (高い)	14.2 ± 4.2 14.1 ± 3.8	15.3 ± 4.1	ns

対応サンプルによる Wilcoxon の符号付順位検定  
ns: not significant

表2. ストレス反応、GHQ の変化

項目	(参考) 50代 平均	参加前 Mean±SD (n=14)	参加後 Mean±SD (n=8)	p
PHRF 不安・不確実感 Range: 0 (弱い) ~ 12 (強い)	2.3	6.1 ± 2.4 6.0 ± 2.7	4.3 ± 1.9 ↑	*
PHRF 疲労・身体反応 Range: 0 (弱い) ~ 12 (強い)	3.8	6.6 ± 2.5 6.4 ± 1.9	7.6 ± 2.1 ↓	*
PHRF 自律神経症状 Range: 0 (弱い) ~ 12 (強い)	1.8	4.6 ± 2.1 5.3 ± 2.2	4.3 ± 2.3	ns
PHRF うつ気分 Range: 0 (弱い) ~ 12 (強い)	3.0	6.5 ± 2.0 6.5 ± 2.5	5.6 ± 2.3	ns
GHQ-12 Range: 0 (よい) ~ 12 (悪い)	3.7 2.8	7.4 ± 3.9 6.9 ± 4.4	3.0 ± 3.4	ns

対応サンプルによる Wilcoxon の符号付順位検定  
\*: p<0.05、 ns: not significant

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 谷山牧、荒木田美香子、山下留理子、橋本（小市）理恵子、大久保豪、甲斐一郎	4. 巻 38
2. 論文標題 就労支援を受ける生活困窮者の就労意欲に影響を与える健康特性の構造の明確化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 263-273
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="https://doi.org/10.5630/jans.38.263">https://doi.org/10.5630/jans.38.263</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件/うち国際学会 4件）

1. 発表者名 谷山牧、荒木田美香子、山下留理子、橋本理恵子、保母恵、若林和枝、大久保豪
2. 発表標題 就労支援を受ける生活困窮者へのトラウマ・インフォームド・ケアを基盤としたストレス対処講座作成と評価
3. 学会等名 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Maki Taniyama, Mikako Arakida, Ruriko Yamashita, Rieko Hashimoto, Suguru Okubo, Megumi Hobo, Kazue Wakabayashi, Chiharu Fujita.
2. 発表標題 Development of a Stress-Coping Educational Program Based on the Trauma Informed Approach for Welfare Recipient in Japanese Welfare-to work programs.
3. 学会等名 East Asian Forum of Nursing Scholars
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本（小市）理恵子、谷山牧、大久保豪
2. 発表標題 トラウマインフォームドケアの現状と課題
3. 学会等名 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本（小市）理恵子、宮本有紀、谷山牧、菊池安希子
2. 発表標題 統合失調症の再燃および再発とトラウマとの関係における文献検討.
3. 学会等名 日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 谷山牧、荒木田美香子、山下留理子、橋本（小市）理恵子、大久保豪、保母恵、若林和枝、甲斐一郎
2. 発表標題 就労支援を受ける生活困窮者の就労意欲に影響を与える精神的・社会的健康特性
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 谷山牧、荒木田美香子、山下留理子、保母恵、橋本（小市）理恵子
2. 発表標題 就労支援を受ける生活困窮者の就労意欲に影響を与える健康特性：彼らの強みとなる要素
3. 学会等名 第7回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Maki Taniyama, Ruriko Yamashita, Megumi Hobo, et.al.
2. 発表標題 Health-promoting behaviors and activities of job-seeking Japanese welfare recipients.
3. 学会等名 3rd world congress on Nursing and Health care (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ruriko Yamashita, Maki Taniyama, Megumi Hobo, et.al.
2. 発表標題 Perceived health related barriers of Japanese welfare recipients in search of jobs.
3. 学会等名 3rd world congress on Nursing and Health care (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 谷山牧、山下留理子、保母恵、他
2. 発表標題 就労支援を受ける生活困窮者の就労意欲に影響を与える健康課題
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Maki Taniyama, Ruriko Yamashita, Megumi Hobo, Rieko Koichi Hashimoto.
2. 発表標題 Health promoting behaviors and activities of job seeking Japanese welfare recipients.
3. 学会等名 3rd World Congress on Nursing and Healthcare (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ruriko Yamashita, Maki Taniyama, Megumi Hobo, Rieko Koichi Hashimoto.
2. 発表標題 Perceived health related barriers of Japanese welfare recipients in search of jobs.
3. 学会等名 3rd World Congress on Nursing and Healthcare (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山下 留理子 (Yamashita Ruriko) (90380047)	国際医療福祉大学・大学院・准教授  (32206)	
研究分担者	保母 恵 (Hobo Megumi) (20757603)	国際医療福祉大学・小田原保健医療学部・講師  (32206)	
研究分担者	藤田 千春 (Fujita Chiharu) (70383552)	国際医療福祉大学・小田原保健医療学部・准教授  (32206)	